

元号寺シリーズ(その3)

建仁寺(臨済宗建仁寺派大本山・京都府京都市)

建仁寺は建仁2年(1202年)將軍源頼家が寺域を寄進し、栄西禪師を開山として宋国百丈山を模して建立されました。元号を寺号とし、山号を東山と称します。

創建時は真言・止観の二院を構え、天台・密教・禪の三宗兼学の道場として当時の情勢に対応していました。

その後、寛元・康元年間の火災等で境内は荒廃するも、正嘉元年(1258年)東福寺開山円爾弁円が当山に入寺し境内を復興、禪も盛んとなりました。

正元元年(1259年)宋の禪僧、建長寺開山蘭溪道隆が入寺してからは禪の作法、規矩(禪院の規則)が厳格に行われ純粋に禪の道場となりました。

やがて室町幕府により中国の制度にならった京都五山が制定され、その第三位として厚い保護を受け大いに栄えますが、戦乱と幕府の衰退により再び荒廃します。

ようやく天正年間(1573-1592年)に安国寺恵瓊が方丈や仏殿を移築しその復興が始まり、徳川幕府の保護のもと、堂塔が再建修築され制度や学問が整備されます。

明治に入り政府の宗教政策等により臨済宗建仁寺派としての分派独立、建仁寺はその大本山となります。

また廃仏毀釈、神仏分離の法難により塔頭の統廃合が行われ、余った土地を政府に上納、境内が半分近く縮小され現在にいたります。



望闕樓の別名を持つ「三門」



重要文化財に指定されている方丈



重要文化財に指定されている勅使門



リモート法事を勤める善教寺御内仏

しております。

話は変わり、緊急事態宣言の時、ある方から、リモート

法事は出来ませんか?とメー

ルを頂きました。その時は、

まだリモート法事は不対応。

しかし今、リモート法事、

リモートでの法要開催、こ

れも一つの手段かなと考

えています。リモート法事
が可能になりましたら、ご
案内させて貰いますね。お
楽しみに。

住職シター

コロナ禍に、梅雨時期の豪雨、夏の猛暑、そして台風の襲来、今年は大変な年であります。

また今年も、報恩講の時期になりました。今から来年の春彼岸頃にかけて、各地のご門徒宅を報恩講参りします。マスク着用のうえ、感染防止に努めて参勤を致しますので、例年通り、待つていて下さいね。

さて、来月の護持会報恩講ですが、今月末の護持会役員会にて、①通常開催とするか? ②食事を提供せず午前中のみの開催とするか? ③法要取り止めとするか?、協議を致します。

コロナ禍の状況では、お斎(法要料理)を提供するのは難しいです。しかし、報恩講の要は、このお斎にあると言っても過言ではありません。午前中の朝席を勤めて、その余韻に浸りながらお斎を頂き、その後、お斎の有り難さに感謝しながら、午後からの昼席を勤める。早く、お斎を参拝者皆さんで、大声出して笑いながら頂ける時を、念願いた